

## 令和6年度第2学期始業式式辞

おはようございます。

さあ今日から2学期のスタートです。夏休みは元気に有意義に過ごしましたか。今年も暑い毎日が続きましたね。まだまだ熱中症には十分に気を付ける必要があります。また夏休み中には、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表され、気象庁は日頃の備えの再確認や、すぐに避難できる準備などの注意を呼びかけました。今日は防災訓練も行われます。真面目に訓練に参加してください。そして緊急時には慌てないこと、落ち着いて行動することを心しておきましょう。

さて、穎明館では7月に小学生対象のオープンスクールを行いました。生徒会ははじめ多くの在校生が協力してくれたおかげで、大成功を収めました。協力してくれた皆さん、ありがとう。実際に穎明館で学んでいる生徒の皆さんの学校愛や、それに基づく発言や行動ほど、中学受験を考えている小学生、保護者に響くものではありません。先生方が準備したユニークで工夫された体験授業を含めて、アットホームな穎明館のよさが伝わる機会になりました。一昨日も学校説明会を行いました。2学期はまた来校者が増えます。お客様には気持ちのよい挨拶でお迎えし、丁寧に対応するようにお願いします。

ところで、私は校長という立場上、穎明館の教育理念、教育方針について語る機会が多いものです。建学の精神や創立者のお言葉、考えは、今までも皆さんに伝えてきました。最近の説明会などでは、「主体性、協働性」をキーワードに、次のように話しています。

「穎明館では授業はもちろん、宿泊体験学習、生徒が自主的に取り組む文化祭や体育祭などの学校行事やクラブ活動などにおいて、主体性、協働性を育てています。ともすると、私たち大人は、子どもを脅かすように、これからの社会はこうなるから、こういった力を身につけなくてはいけない、などと言います。グローバル人材、デジタル人材の育成等々、確かに大事なことであるし、本校の学校改革「EMK 未来プロジェクト」の柱でもあります。ただ、一番大事なことは、「今まではこういう社会だったけれど、こういう世の中を創っていきたい」という子どもたちの主体性、協働性を育てていくことだと考えます。「自分たちの時代の社会のあり方は、自分たちで決める」といった意欲、覚悟、決意を持たせることこそ、私立学校、穎明館に求められていると思っています。」

どうでしょうか。私は穎明館生皆さんに主体性、すなわち自分の意思や判断において、自ら責任を持って行動できる人になってほしいと思っています。同時に協働性、すなわちコミュニケーションを通じて、様々な立場の人たちと課題に取り組んでいける人にもなってほしいと考えています。

穎明館、学校は社会的な訓練の場でもあります。例えば今、皆さんの最大の関心事である文化祭への取り組みは、主体性、協働性を育む最大のチャンスでもあります。毎年、準備の過程では、うまく事が進まない場面に直面したという話を聞きます。今、大変な思いをしている人、皆さんは本当にいい経験、貴重な学びをしていると思います。粘り強く努力して本番に臨んでください。失敗することがあるかもしれませんが、EMKのE、Experience（経験）は失敗経験を含みます。失敗を恐れず果敢に挑戦してみましょう。穎明館生皆の活躍、頑張りが見られる今年の文化祭が今から楽しみです。

今日はもう一つ、友人、友だちについて話したいと思います。友だちはいいものですね。少し個人的なことを話します。私は、ここしばらくの間、お互いの忙しさもあり、なかなか会えなかった学生時代の友だちと、（年齢のせいでしょうか）最近はやや再会することも多くなりました。先日は高校時代の友人たちと会いました。

「お互いかわらないなあ」と、40年以上たったお互いの容貌の変化は無視して、一気に昔に時代が戻ります。私の高校は男子校で1クラス55人、3年間クラス替えはありませんでした。クラスの5人ほどは留学生、留年生です。彼らはヒーローでした。そして私のクラスにはもう一人、ヒーローがいました。とある女性トップアイドルの初主演映画の相手役を選ぶオーディションに見事に通って、（20000人以上も応募していたそうです。約20000人からただ一人、素人が準主役に選ばれました。）芸能界にデビューした友だちがいたのです。

私はその彼と自宅が近いこともあって、通学をよく共にしていました。電車の中で見知らぬ女性から声をかけられるような格好いいやつでしたが、まさか芸能界に飛び込むとは……仰天しました。ただ彼の偉いところは、映画撮影と学業の両立にしっかりと取り組んでいたことです。そんな彼の様子に、私を含めクラスメイトもノートを貸したり、授業内容を教えたりと、かなり協力的だったと思います。先日再会した際も、彼を中心とした当時の話で大いに盛り上がりました。彼の口からは、「映画のためとはいえ坊主頭にしたのは本当に嫌だったこと。留年しないように皆に協力してもらって感謝していること。芸能界はあわなくて進路変更して後悔はないこと」等々、今だから言える話を懐かしそうに語ってくれました。その後は、参加者全員が昔話や近況報告まで思い思いに語り尽くし、旧友再会、昭和の青春プレーバック、フォーエバーヤングの会は、次回を約束して盛会のまま幕を閉じました。

友だちはいいものですね。今回、友だちについて話す上で、改めて多くの本を読みました。その結果、友人関係はそれぞれであり、教訓的なことを言うのは野暮かなとも思いましたが、やはり一冊だけ『ビジネスマンの父より息子への 30 通の手紙』（キングスレイ・ウォード著 城山三郎 訳）より、その一部を紹介したいと思います。

「若者にとって、幸福に欠かせないものは友情の恵みである」。これ以上の真実はない。人生の山や谷で、同志以上に何を求めるだろう？ 親しい貴重な友人以外の誰に、自分の成功を自慢し、失敗や損害の愚痴を言えるだろう？

『親友』とは何か？ どう説明するのが最も確だろう？ 私の観察によれば、一緒に泣いてくれる人は多いが、心から一緒に喜んでくれる人は少ない。したがって、私の考えでは、親友は君の成功を、嫉妬心を交えないで喜べる人である。「すばらしい！ もう一度やってくれ、その気になれば、もっとうまくいくから！」。心からそう思ってくれる人である。

「一緒に泣いてくれる人は多いが、心から一緒に喜んでくれる人は少ない。」——

思えば、先ほどの彼の映画出演、芸能界デビューの話は、当時の我々にとって心からの喜びであったと思います。当時も、そして今も彼は我々の誇りです。また、今回の再会の折、某有名企業の社長を務めているある友人に、周囲から「社長か、すごいよな」との発言が相次ぎました。それに対して、「すごいかなあ、むしろ社長の肩書がなくなったときに、どれほどの人間か、が問われていく気もするよ」という、社長本人の言葉も印象に残りました。

穎明館生の皆さん、皆さんには皆さんの成功を心から一緒に喜んでくれる人はいますか。6年間の学校生活を通じて、互いの成功をともに喜び合える友人関係、一生付き合えるような友人関係を作り上げていきたいものです。

最後に6年生、38期生の皆さん、皆さんには今、一緒に学び、時に苦しみもがき、ともに高めあう友だちがいますね。これから入試本番まで精神的にも辛い時があることでしょう。「受験は団体戦」です。ともに乗り越え、互いの合格を心から喜び合えると信じています。頑張り6年生、38期生！いつでも応援しています。

今日は「主体性、協働性、そして友だちについて」話しました。日々、自ら考えて行動し、友だちとともに課題に取り組んでいく——成長を意識して前進してください。穎明館生皆さんにとっての2学期が充実することを心より願っています。

以上、令和6年度第2学期始業式式辞といたします。